



平成29年4月24日(月)
校長通心 No.3 校長 馬渡教三

教室はまちがうところだ
 藤田晋治

教室はまちがうところだ
 みんなどしどし手をあげて
 まちがった意見を言おうじゃないか
 まちがった答えを言おうじゃないか
 まちがうことをおそれちゃいけない
 まちがったものを笑っちゃいけない
 まちがった意見をまちがった答えを
 ああじゃないか こうじゃないかと
 みんなで出し合い言い合う中で
 ほんとのものを見つけていくのだ
 そうしてみんなで伸びていくのだ
 いつも正しくまちがいのない
 答えをしなくちゃならないと思って
 そういうことだと思っているから
 まちがうことが怖くて怖くて
 手も上げないで小さくなって
 だまりこくって時間が過ぎる
 しかたないから 先生だけが
 勝手にしゃべって生徒はうわの空
 それじゃあちつとも伸びてはいけない
 神様だってまちがう世の中
 ましてこれから人間になろうとしている
 僕らがまちがったって
 何がおかしい あたりまえじゃないか
 うつむきうつむき
 そうとあげた手 はじめてあげた手
 先生がさした



どきりと胸が大きく嘔って
 どつきどつきと体が燃えて
 立ったとたんに忘れてしまった
 なんだかぼそぼそしゃべったけれども
 何を言ったかちんぷんかんぷん
 私はことりとすわってしまった
 体がすうっと 涼しくなつて
 ああ言やあよかつたこ言やよかつた
 あとでいいこと浮かんでくるのに
 それでいいのだ幾度も幾度も
 おんなじことを繰り返すうちに
 それからだんだんどきりがやんで
 言いたいことが言えてくるのだ
 はじめからうまくいえるはずないんだ
 はじめから答えがあたるはずないんだ
 何度も何度も言ってるうちに
 まちがううちに
 言いたいことの半分くらいは
 どうやらこうやら言えてくるのだ
 そうしてたまには答えもあたる
 まちがいだらけのぼくらの教室
 恐れちゃいけない 笑っちゃいけない
 安心して手をあげる
 安心してまちがえや
 まちがったって 笑ったり
 ばかにしたり 怒ったり
 そんな者はおりやせん

まちがったって誰かがよ
 直してくれるし教えてくれる
 困ったときには先生が
 ない知恵しぼって教えるで
 そんな教室つころうや
 お前へんだと言われたって
 あんたがうと言われたって
 そう思うんだからしょうがない
 誰かがかりにも笑ったら
 まちがうことがなぜ悪い
 まちがってることわかればよ
 人が言おうが言まいが
 おらあ 自分であらためる
 わからなけりやあ そのかわり
 誰か言おうとこつこうと
 おらあ根性まげねえだ
 そんな教室つころうや

文武両輪 とそれを支える 絆シャフトを 土台に 『主体的・対話的に学び合おう！』

今日の任命式後にプレゼンする機会をもらうことができた。みんなが将来、職業人・社会人・家庭人として自立し「生きる力」と「人間力」⇒(多様な価値観の集団の中で共生していく)に富んだ力を身に付けるため、そして、3年後の自立(自分の進路を自分の責任で選択し、そのことに納得して次に進む=自己決定力)という目的を成し遂げるためにも、「文武両輪」と「絆シャフト」は絶対に欠かせないものになると考えている。つまりは、知・徳・体のバランスがとれた人間になるために湊中学校の学校生活があるんだと考えればよいと思う。

『文の車輪』は、**確かな学力・情報編集型学力・学ぶ力**を養う部分であり、毎日の授業がその中心になっているけれど、宿題や、提出物なども含むと考えていい。勉強することで一番鍛えられるのは集中力であり、それは意識が対象に向かい気が散っていない状態である。一方『武の車輪』は、**集団力・努力の持続力・リーダー力**を養う部分で、様々な困難をみんなの力で乗り越え、一人では味わうことの出来ない達成感を経験したり、得意な分野でリーダー経験を積んだりする車輪である。そして、それをつなぐ絆シャフトは、「怒の精神」を根っこに、違った考えを持ったまま、お互いに最大限の満足を引き出す(相互貢献)ために**人間関係のバランス感覚**を鍛える大切な軸である。例えば、どれぐらい言い過ぎたらあいつは怒るのか?とか…仲良しとそれ以外の距離感…笑って許される範囲とそれを超える領域…仲間はずれの寂しさと一緒に一致団結して何かを成し遂げたときの喜び…などなど…。そして、この絆シャフトが各クラスでの学級づくりや学年づくりになる。絆シャフトはある意味で「湊魂」でもあると思っている。4月のスタートで、無目的に集められた各クラスのメンバーが集団づくりをし、誰もが居心地良い集団に成長していくと、絆シャフトは太くなり、両輪が安定し多少の凸凹道(困難)も乗り越えていける。絆シャフトが細い集団は、困難という悪路になったとき両輪を回せなくなる。つまりは、文武の両輪を目的に向けて回していくためには、**異なる考え方をを持った他者と、どうやって関係を持ち、どうつながっていきばいいのか?ってことを磨いていかなければならぬぞうだ。それには、自ら進んでコミュニケーションを回り、相互に貢献し合う関係をどれだけつくっていきけるか?がカギを握っている。**それを踏まえて、本年度の目標を「文武両輪とそれを支える絆シャフトを土台に、主体的・対話的に学び合おう!」に設定した。授業(文車輪)や行事・部活動(武車輪)をはじめ、学級や学年のすべての学校の生活の中で、主体的に対話的にお互い同士が学び合っていてほしいという願いを込めてである!

中学校で毎日生活し、自分や集団を鍛えていくということは、「これから先の人生を生きる技術を磨く」と言っていると思う。だって、高校に行くためにだけに勉強するんだったら、5教科だけを塾のようにテストでレベルごとにクラス分けをして、そのレベルにあった反復効果の高い授業していけば向上していくのは当たり前のことだからだ。中学校のクラス集団は、レベルもまちまち、「体育」「音楽」「美術」「技術家庭科」という技能教科もあり、もしかしたらイジメがあったり、不登校傾向や発達障害傾向の子もいるかもしれない。みんなに気づいてほしいのは、**中学校の先生は、こんなに種々雑多に幅広く、教えるににくい集団に勉強を教え、人間関係のバランス力をつけさせようと、各行事にみんなと一緒に燃え、放課後は毎日部活動に付き添い、なおかつ強靱な絆シャフトをつくるべく、クラスで問題が発生したら相談にのったり…、解決のために一緒に悩んだり…、時には突き放したり…、場合によっては家庭訪問に出かけていってくれたり…そのうえ、休日は無償のボランティアで部活動の面倒を見てくれている!!感謝!!である。**……ということで、なぜ「勉強」も「家庭学習」も「行事」も「部活動」も一生懸命やらなければいけないかが何となくわかってもらえたんじゃないかな?平成29年度の目標に全校生徒で向かっていこう!!

H29年度学校目標 「文武両輪」とそれを支える「絆のシャフト」の取組により
『主体的・対話的に学び合おう!』



